

日本初のオリンピック代表選手 三島弥彦

—伝記と史料—

尚友倶楽部

内藤一成 (宮内庁書陵部主任研究官) 編集

長谷川怜 (愛知大学国際問題研究所)

A 5判 260頁 本体 2,500円

ISBN978-4-8295-0752-0 【尚友ブックレット34】



みしまやひこ
三島弥彦

(1886-1954)

明治19年東京生まれ。父は警視總監三島通庸、兄は銀行家三島弥太郎。学習院に進み、野球をはじめスポーツ万能選手として名を馳せた。東京帝国大学法科大学入学後は陸上競技で頭角を現す。明治44年オリンピック予選会に飛び入り参加。短距離競走で好成績を収め、マラソンの金栗四三と共に第5回ストックホルム・オリンピックの代表選手となる。帰国後帝大を卒業し横浜正金銀行に勤務。

2019年NHK大河ドラマ「いだてん ~東京オリムピック噺~」の主人公の一人、三島弥彦(演・生田斗真)とはどんな人物だったのか痛快な人物像が明らかになる評伝と、初めて公開される写真・書簡・日記・草稿などの資料で構成された一冊



NIPPONと書かれたプレートを掲げて入場する弥彦



大会前の興奮を書き綴り親族に出した絵葉書



「金栗、三島の遠征」(『明治大正昭和大陸』キング附録)

日本のオリンピック参加は1912年(明治45年)の第5回ストックホルム・オリンピック大会が最初。遠征費用も自己負担という厳しい時代に、陸上短距離の三島弥彦とマラソンの金栗四三の2名が参加した。国際スポーツ界にデビューしたこの大会で世界との水準の差をまざまざと見せつけられた三島は、手紙や新聞談話、草稿などで当時の心情を書き残していた。

- 三島弥彦小伝 内藤 一成
弥彦の誕生と少年時代／学生時代／弥彦とスポーツ／大学進学とストックホルムオリンピック出場／それからの弥彦
- 資料編
三島弥彦あて書簡(オリンピック出場の弥彦あて書簡)
三島弥彦書簡
オリンピック時弥彦書簡／オリンピック終了後世界漫遊／横浜正金銀行時代

- 三島弥彦日記 明治四十一年
雑誌、新聞掲載文・談話など
振武の大競争 クロスカンツリレース／読売新聞：三島選手の通信／雪中アルプスの嶮を攀ぶる記／三島選手帰る／欧米を歴遊して／日本の参加した頃／相手の力も知らずに出場“カケッコ”で外国旅行と評判／三島弥彦翁スポーツ放談
三島弥彦年譜／三島弥彦関係系図

12月中旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 12月4日(火) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
日本初のオリンピック代表選手 三島弥彦	部	
12月新刊 本体 2,500円		